

**放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)**

公表:令和 3年 3月 15日

事業所名 このひかり赤野校

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	活動内容や学年に合わせて使い方を分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	0	支援の質にこだわり、基準以上の配置をこころがけている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	1		必要に応じて改善・改修を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	0	月毎に支援目標を定め、どの職員も同じ視点で支援にあたっている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	5	0	整備中	自己評価公表制度について、理解を図る。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6	0		今後は実施を検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	0		研修動画など、デジタル教材の活用方法を職員へ周知し、必要な情報や知識を学ぶようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	日々の支援から児童の課題を分析し、支援計画に反映させている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	3	1	支援ツールを準備している。	アセスメントツールの使用方法を研修等で紹介し、実務に活用できるように改善したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	0	活動内容は全体で見直している	全体会で目標を決めるなど、一貫した療育計画を立てる工夫が必要。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	2	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	3	0	出前授業等の活用	活動内容のアイディアを常に探し、多彩なプログラムを計画できるようにしたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	個々の特性に合わせた支援を考え、計画に反映させている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	0	毎朝のミーティングで確認している。	業務分担をより明確にし、働きやすい環境を作る
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	0	気になることは業務日誌に記録し、情報共有に努めている。	パート職員を含めた情報共有方法の見直しが必要。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	0	支援計画にもとづいた支援の観点で記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	2	4	0		研修等を活用し、ガイドラインの理解を図る。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1	0	送迎時に学校と情報交換を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	5	1	対象児童なし	必要に応じて連携を図る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	5	0	相談支援専門員を通して、支援者会議の開催	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	5	1	対象児童なし	記録は保管しているので、必要に応じて対応可能
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	6	0		コロナ禍で外部連携が図れなかつたので、今後は、検討したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3	3		コロナ禍で地域連携が図れなかつたため、事態が収束したら計画したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	2		コロナ禍で外部連携が図れなかつたので、今後は、検討したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	2	0	主に送迎時に情報交換を行い、必要に応じて会議を開いている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2	1		職員でも研修を行い、保護者と共に支援について考える機会を設ける。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2	0	契約時に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	家族の気持ち寄り添い、助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	2		コロナ禍で家庭連携も図れなかつたので、今後は計画的に行う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	2	0		苦情解決のマニュアル等を活用し、適切に対応できるようにする。また、第三者委員を設け、円滑な苦情解決を図る。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	5	1		R3.4からシステム導入をするので、児童の活動状況がより詳しく保護者へ伝えることができようになる。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0	使用する際には、保護者の許可をもらう。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	0		コロナ禍で外部連携が図れなかつたので、今後は、検討したい。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	4	0		マニュアルの保管場所や使用方法などを周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	3	0		緊急時の対応について、研修を計画し、定期的に行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1	0		年に2回、虐待防止研修の実施
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	0		身体拘束について、個別支援計画に記載しているので、中途入社の職員にも周知できるようにする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	0		対象児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0	5	1		ヒヤリハットの作成を行う。